

赤松正行

岡本光博

クワクポリョウタ

ジェームズ・ギブソン+TAB

仙頭武則

田尻麻里子

田中広幸

塚本美奈

廣瀬周士

福本浩子

前田真二郎

松井茂

松島俊介

三輪真弘

八嶋有司

IAMAS メディアサイト研究会

MM Lab.

日々の裂け目

岐阜 おおがきビエンナーレ 2015

# CRACKS OF DAILY LIFE

Ogaki Biennale 2015, 19-23. December

会期：2015年12月19日 [土] — 23日 [水・祝]

会場：ソフトピアジャパン・センタービル

主催：情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 岐阜県 大垣市

後援：岐阜県教育委員会 大垣市教育委員会

協賛：公益財団法人十六地域振興財団 OKB 大垣共立銀行

協力：だるまジャパン合同会社 サンメッセ株式会社

同時開催：「芭蕉元禄イルミネーション」

「ソフトピアジャパン冬のファンタジー」



## A トランス・フロア 2

IAMASメディアサイト研究会  
/ IAMAS Media Site Research Society

トランスフロアは、観客の行為に応じて反応するインタラクティブなメディア装置を用いて、普段見慣れた風景を一時的に変え「楽しく不思議な通路」の歩行を体験してもらうものです。

「トランス」は、「～を超えて」、「～を通して」という意味や、「別の状態への変化」という意味があります。昨年、今年と「大垣駅南北自由通路」でも設置しました。



## D ノイズ+ 木立の向こうの言語標本

田中広幸 / Hiroyuki TANAKA

『ノイズ+』（2009年）は、古書のページを線香で焼いて虫食いのようにし、一部に他の古書からの文字を移植した作品で、『木立の向こうの言語標本』（2011年）は、古書の50ページぶんの文字列を、一部を残して切り落とし、残った行間を樹木に見立てて彩色したものである。

いずれの作品も、意味伝達の局面において、けって透明ではありません。「媒体」「メディア」としての文字の属性が、私たちの深層に及ぼすだろう避けがたいノイズをテーマとした。



## B A to Z [images on the network]

MM Lab.

インターネットには膨大な量の写真や画像のイメージがアップロードされている。検索エンジンは様々なイメージを探してくれるのだが、近年はそれと同時に『お薦め』をしてくれる。アルファベットのAからZまでを打ち込み、そのお薦め画像を観察することを試みた。世界各国でどのようなイメージがお薦めされているのだろうか？



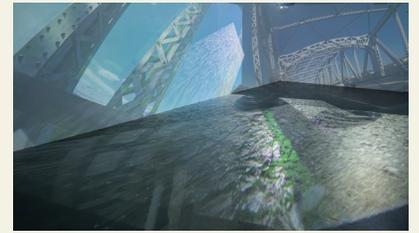
## E roots

廣瀬周士 / Shuji HIROSE

「人も初めは泥だった」「土に還る」ともいう。確かに地面は何かを記憶している。分解と再生を繰り返しながら。

しかしこの循環は当たり前には起こることではないという事実を知る。

僕は地面と繋がった。それは風や雨や光とも繋がることを意味していた。



## C The Dive – Methods to trace a city

八嶋有司 / Yushi YASHIMA

カメラを委ねる。自身の体に複数のカメラを取りつけ（両手首、両足首、額、後頭部）歩きながら風景を同時に記録したマルチ・チャンネル ヴィデオ・インスタレーション。被写体に対し撮影する行為ではなく、撮影者の身体に従い風景を記録する。6面に映し出された風景は、統一された世界と身体感覚を解体し、自分を中心とする世界の様相に裂け目をあたえる。

(Photo: 表恒匡)



## F H LIFEjacket シリーズ/モレシャン、他

岡本光博 / Mitsuhiro OKAMOTO

「モレシャン/LIFEjacket 5」は、モレシャン(morechand)というフランス人の名前を持つゆるキャラです。汚染廃棄物が「漏れる」という意味ではありません。逆に汚染廃棄物から守ってくれる正義の味方です。

LIFEjacket 1-4、LIFEplan、モレシャン / LIFEjacket 5、モレシャンズ - 福島県富岡町 - 2015年10月21日



## G スクリーン Time and Space Machine!

赤松正行 / Masayuki AKAMATSU

納屋から古いタイムマシンを引っ張り出しました。かつては大活躍したものの、近年はもっと便利なマシンに取って代わられていたのです。薄っすらと溜まった埃を払い、油を差して動作確認をしています。これまでの時間移動に加えて、空間移動もできるように改造しました。さて、うまく作動するでしょうか？ ネジが吹き飛び、煙を上げないことを祈るばかりです。波乱万丈の大冒険にご期待ください！  
(技術協力：小林孝浩、ad@)



## スクリーン Nothing Parts 71

仙頭真則 / Takenori SENTO

ある日、智一は沖縄で(軍用地)売買やホステスの斡旋などを生業とする信二の車に轢かれてしまう。互いが71年生まれということで意気投合し、二人は智一の仕事場である遺骨の発掘現場へと向かうのだが…やがて沖縄の迷走を自ら体験してしまうことになる。二人が最後にたどり着くその場所は…。沖縄でのプレミア上映では観客から「リアルすぎる」「よくぞここまで描いてくれた」「なんでこんなこと描くのか」と猛烈な賛否を巻き起こした問題作。

※ 12月20日 [日] 17:00-19:30 上映



## I 量子詩

松井茂 / Shigeru MATSUI

「量子詩」は、2002年1月5日に制作を開始した方法詩。2002年3月11日から5日毎にメール配信を行っている。「量子詩」は、「純粋詩」の執筆行数と、『毎日新聞』朝刊の「お天気」欄から、東京地方の「きょう」を含む4日間分の最高予想気温と最低予想気温の引用を併記した、5日分のテキスト作品。  
(インストール：ad@)



## スクリーン ありふれた時間

田尻麻里子 / Mariko TAJIRI

足が、さまざまな場所に置かれた卵の殻を踏んで歩く。クシャッという音が連なっていく。一刻一刻、時間を潰し、それまでの自分の世界を壊しながら生きていくように、一度壊れたたまごは決して元には戻らず、だが歩く行為は繰り返される。



## J Typogaki

ジェームズ・ギブソン+TAB / James GIBSON+TAB

どんな街でも歩くことで私達の変化する社会の証拠が見られます。デザインと同じように都市は時間と共に進化し、経済的・政治的な状況を反映します。繁栄の時代を過ぎた大垣は都会的、産業的、世代的な変化を遂げようとしています。古いものを捨てることで、近代化する都市は活性し、より均一なものへと変化します。近代化にともない失われる前に Typogaki のような地域のデザインを記録することがますます重要になります。



## スクリーン ライブ上映『日々“AUG”8 years mix [2008-2015]』

前田真二郎 / Shinjiro MAEDA

8年目となる『日々“AUG”』。この短編映画は8月の1ヶ月間、毎日撮影を行い、1日15秒の映像を順番に31カットつなげるシリーズです。偶然に出会った風景や計画して演出したショットなど、前後のカットの関係を意識しながら撮影します。今年は「天皇」について考えながら8月を過ごしました。濱地潤一(サクセス)、ナガタミキ(朗読)が加わったライブバージョンでの上映です。

※ 12月23日 [水・祝] 17:30-18:00 上映



## K La Biblioteca — パベルの図書館 —

福本浩子 / Hiroko FUKUMOTO

「パベルの図書館」とは、ボルヘスの小説に登場する、無限の本を収蔵する図書館のことである。この作品では、印刷物を加工し、ブロックのような形に整形したものを、乾燥させて大きな塔状に積み上げる。身近な印刷物が大きく形を変えて、そこに書かれていたのとは違う「情報」を持つ構築物になっても、それはまぎれもない「情報」であり、それを集積することで、構築物は無限を目指す情報の場—図書館そのものとなるのだ。



## N Gift

クワクポリョウタ / Ryota KUWAKUBO

冬の或る晩。  
大きな竜巻が起きて、物という物が全て宙に巻き上げられてしまいました。  
僕の物も。君の物も。  
すべての人から。すべての家から。すべての国から。  
地上には、人間だけが残されました。  
そしてただ空の光景をぼーっと眺めるしかありませんでした。

※写真は参考作品です。



## L images.jpg シリーズ

塚本美奈 / Mina TSUKAMOTO

特定の言葉からネット上の画像イメージを収集し、どこかの誰かの記憶をあらたに生み出す。これは実際に誰かの記憶ではありませんが、画像はすべてイメージです。

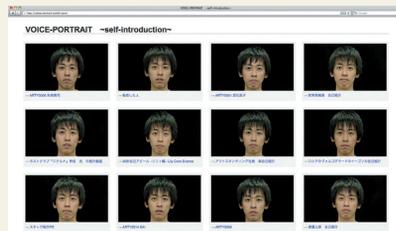


## パフォーマンス ひとりの傍観者と6人の当番のための『みんなが好きな給食のおまんじゅう』

三輪真弘 / Masahiro MIWA

三輪真弘によるオリジナルの音楽パフォーマンス作品。三輪は「逆シミュレーション音楽」という独自の方法論に基づき、コンピュータ上で作られたプログラムを偽の伝承やフェイクの物語をもとにして、飽くまでも人間の肉体を通してその場で実演する「奉納」の音楽を作り続けてきた。『みんなが好きな給食のおまんじゅう』では、戦後の歴史と人々の個人的な記憶とを召喚するオリジナルな音楽的奉納の儀式が繰り広げられる。

※12月18日[金] 18:30—19:00 上演



## M VOICE-PORTRAIT Remix 2015

松島俊介 / Shunsuke MATSUSHIMA

VOICE-PORTRAITは、YouTubeなどにある「自己紹介動画」を作者が模倣するという映像表現の試みです。映像上の人物が話している言葉や表情、身振りを模倣することで、「私」が語っているように見えながら、声やそれが語る言葉は「私」のものではないという状況が生まれます。

総合ディレクター：安藤泰彦

岐阜おおがきビエンナーレ2015実行委員会：

吉田茂樹、三輪真弘、小林昌廣、安藤泰彦、前田真二郎、  
瀬川晃、八嶋有司

展示構成：安藤泰彦、小杉美穂子

企画制作・進行：八嶋有司、高尾俊介

岐阜おおがきビエンナーレスタッフ：上山朋子、

池田泰教、大石桂誉

撮影・記録：高嶋浩、伊藤大作

デザイン：瀬川晃、ジェームズ・ギブソン、伊藤晶子

WEB：星卓哉

翻訳：マシュー・ドリュウ

展示設置責任：トリガーデバイス

## 情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]

〒503-0006 岐阜県大垣市加賀野4丁目1番地7

TEL 0584 75 6600 FAX 0584 75 6637

MAIL event@ml.iamas.ac.jp

URL www.iamas.ac.jp

© 2015 OGAKI BIENNALE 2015. All Rights Reserved.



**赤松正行** | メディア作家、博士(美術)、IAMAS 教授。インタラクティブな音楽や映像作品を制作、近年はモビリティとリアリティをテーマに研究を行っている。代表作に書籍「Maxの教科書」、アプリ「Banner」、展覧会「AR アートミュージアム」などがあり、「セカイカメラ」や「雰囲気メガネ」といった先進的な IT 製品の開発を通じてアートの領域を広げようとしている。



**岡本光博** | 私の表現は「社会を映し出す鏡」でありたいと考えています。ただ、真正面から映し出すのではなく、私なりの美学やユーモア、霊体験や異文化生活経験で得た要素を歪みとして、ほんの少しだけ角度のついた「鏡」です。



**クワホリョウタ** | アーティスト。デジタルとアナログ、人間と機械、情報の送り手と受け手など、さまざまな境界線上で生じる事象をクローズアップする作品によって、「デバイス・アート」とも呼ばれる独自のスタイルを生み出した。2010 年発表のインスタレーション「10 番目の感傷(点・線・面)」以降は、観る人自身が内面で体験を紡ぎ出すような作品に着手している。



**ジェームズ・ギブソン** |  
Hiker, Thinker, Doer, Designer, Researcher, Writer, Photographer, Teacher.  
(ハイカー、思想家、実行者、デザイナー、研究者、作家、写真家、教員)



**仙頭武則** | 1961 年生まれ。1992 年、映画製作を開始し、プロデューサーとして 16 年間で 45 人の監督と 60 作品以上を手がけ、12 カ国の国際映画祭で 100 賞以上を受賞。他作品に『女優霊』『リング/らせん』『美しい夏キリシマ(キネマ旬報ベストワン)』等。『私立探偵演マク TV シリーズ』をはじめ他 TV 番組でも民放連続企画 2 度、ギャラクシー賞、芸術祭優秀賞等多数。『Nothing Parts 71』は初監督作品。現在、名古屋学芸大学教授。



**田尻麻里子** | 映像を使ったインスタレーションやライブ・パフォーマンスを行う。鑑賞者の目のみでなく五感に働きかける作品をめざしている。



**田中広幸** | 絵画から出発し、1996 年より作品の一部に本を用いるようになった。当初は本の形態と構造に面白さを感じていたのだが、その後、「言葉」と「文字」の持つ「響き」「記された形態」としてのある種の物質性がもたらす独特な働きに興味を持つようになり、現在は古書を加工したオブジェやインスタレーションの制作に取り組んでいる。



**塚本美奈** | 写真を題材として映像作品、写真作品を中心に発表。2010 年、ポートギャラリー T(大阪)にて個展「Melting point」。2013 年、京都シネマコレクションに「images.jpg」を出品。



**廣瀬周士** | 美術作家。日常的なものごとを、地図逆転の視点から再認識するための表現活動を目指す。「反転」「分解」「再生」という造形プロセスを、ものごとの成り立ちと重ね合わせながら、それまで見ていたものと見てとれなかったものとの本来的な繋がりを確かめている。



**福本浩子** | 現代美術家。主に本や雑誌、新聞紙などの印刷物を加工して、新たな形を構築したものを提示する。ブックオブジェやインスタレーションを制作。近年では、木の葉(タラヨウ)に文字を書く作品や、本からきのこを生やす作品も制作。それらの「モノ性」と「情報性」に着目し、一貫して、「<情報>と<モノ>との関わり」をテーマとして制作活動をしている。



**前田真二郎** | 1969 年生まれ。映画、メディアアート、ドキュメンタリーなどの分野を横断して国内外の映画祭や展覧会で発表を続けている。『BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW』が第 16 回文化庁メディア芸術祭・アート部門にて優秀賞を受賞。IAMAS 教授。映像レーベル SOL CHORD スーパーバイザー。



**松井茂** | 1975 年東京生まれ。詩人として、近年はサウンド・デザイナー、映像作家との協業による制作を行う。研究者としては、映像メディア学に基づいて、マス・メディアを分母とした現代芸術の表現動向に着目し、研究に取り組んでいる。



**松島俊介** | 実写表現をベースに、主に web をフレームとした映像作品を制作している。代表作に web 上にある自己紹介映像を自ら模倣したポートレート作品「VOICE-PORTRAIT」がある。近作はストックフォトサイト「PIXTA」で自身のポートレートを販売する実験的作品を展開。



**三輪真弘** | 芥川作曲賞、アルス・エレクトロニカ(オーストリア) グランプリなどの現代音楽やメディアアートにおける数々の賞を受賞。同時に自らも「フォルム脱兄弟」という音楽ユニットを組み、多岐にわたる活動を展開している。IAMAS 教授。



**八嶋有司** | 社会をトレースする一つの方法として作品制作を位置づけ、映像、立体、インスタレーションを中心に発表を行なう。日常に点在する記憶に残らない情報の断片を集積することで、内面化された規範や見えることのない社会像を浮き彫りにする。



**IAMASメディアサイト研究会** | IAMAS 卒業生、研究生、在学生から構成され、日頃見慣れた地域の光景を現代のメディア・テクノロジーを用いて一時的に変えることにより、場所と人の新たな出会い・交流の場を生み出すことを目指す。具体的には、公共空間においてメディアを用いたイベントの開催や体験型の作品装置の製作及び展示を行い、メディア技術の可能性を追求すると共に地域の賑わいの創出に貢献できるよう活動している。



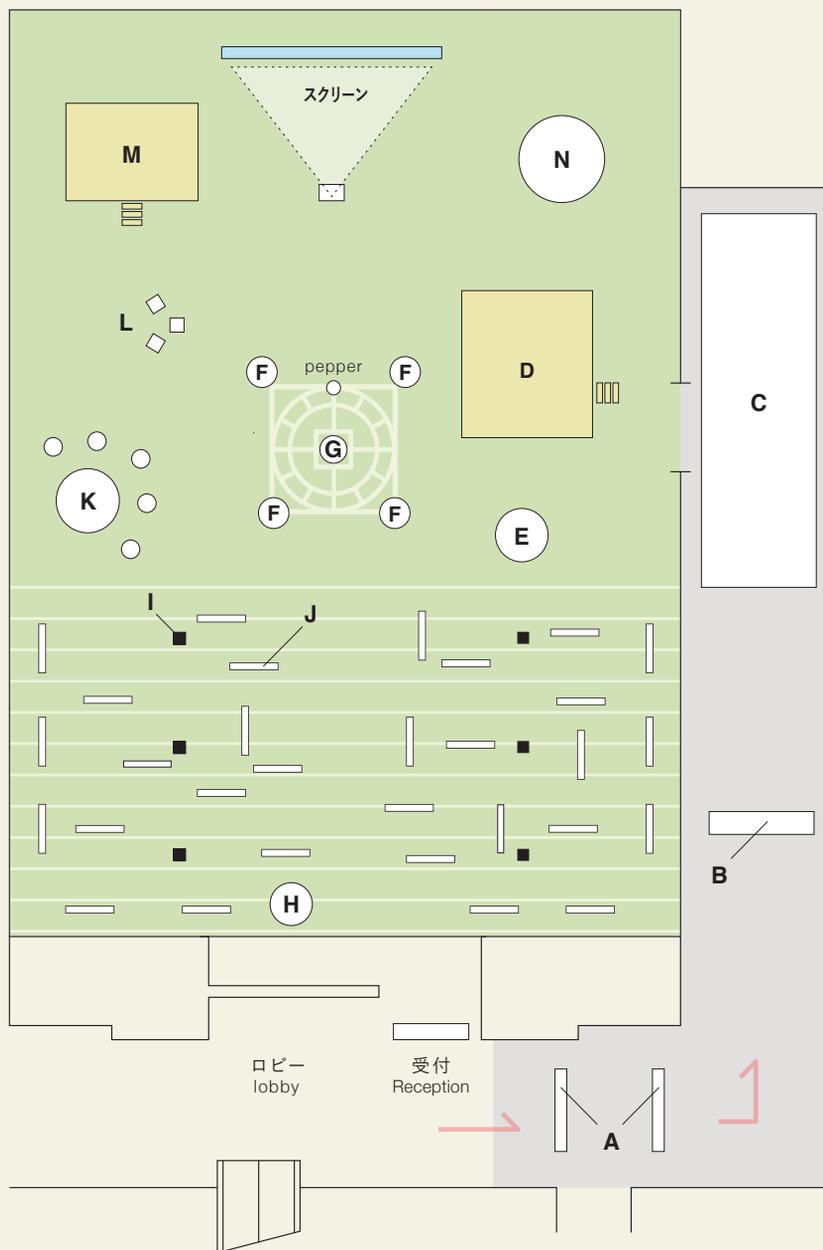
**MM Lab.** | 真下武久(1979 年生まれ)と前田真二郎(1969 年生まれ)によるアート・ユニット。真下武久は Moony、SZ、intxt などのグループに参加し国内外で精力的に発表。2015 年は個展「para-motion」が目玉を集めた。2010 年に映像作家である前田真二郎と MM.Lab を結成。インターネット環境が一般化した現代における映像表現を探索。



**TAB** | 西田拓馬(TAB 代表 / 1979 年大塚生まれ)・山下健(1982 年東京生まれ) 横山将基(1986 年愛知・碧南生まれ)・富田太基(1990 年埼玉生まれ) による岐阜県大塚市に拠点を置く建築設計事務所。2013 年設立。建築設計を基盤にデジタルアプリケーションを用いた家具や雑貨などのプロダクト制作からイベントや期間限定のショップ、街づくりに関することまで幅広く手がける。

## EXHIBITION MAP

会場図



## EVENT SCHEDULE

イベントスケジュール

12月18日 [金]

18:30-19:00 前夜祭  
パフォーマンス「ひとりの傍観者と6人の当番のための『みんなが好きな給食のおまんじゅう』」  
三輪真弘 (IAMAS)  
俯瞰映像: 赤松正行 (IAMAS)

12月19日 [土]

11:00-11:30 オープニングセレモニー  
17:00-18:30 アーティストトーク

12月20日 [日]

17:00-19:30  
特別映画上映 仙頭武則監督作品  
「NOTHING PARTS 71」+ トークイベント  
仙頭武則 (映画監督、映画プロデューサー、名古屋学芸大学教授)  
前田真二郎 (IAMAS)

12月21日 [月]

17:00-18:30 IAMAS特別公開授業  
「ストリート・アート—メディア考古学の視点から—」  
"Art in the Streets - a Media Archaeological Perspective"  
エルキ・フータモ (UCLA 教授)  
司会・通訳: 吉岡洋 (京都大学教授)

12月23日 [水・祝]

17:30-18:00  
ライブ上映 前田真二郎監督作品  
「日々 "AUG" 8 years mix [2008-2015]」  
前田真二郎 (IAMAS)、濱地潤一、ナガタミキ

18:30-19:00  
クローゼットトーク  
小林昌廣 (IAMAS)、松井茂 (IAMAS)、安藤泰彦 (IAMAS)  
※延長の場合があります。

《特別出演》  
Pepper 作品ガイド (プログラム: 篠田幸雄)  
ヒト型ロボット Pepper (名前: クラッカー) が会場内で作品ガイドをします。

※会期中、展覧会の記録撮影を行います。この記録は、IAMASが主催するイベントとして研究及び、活動紹介として活用される場合がございます。記録への映り込みが気になる方は、お近くのスタッフまでお声掛けください。